

# 北海道における農福連携に関する意識調査報告 (概要)

## 実施概要

### <調査対象>

- 北海道内の各市町村行政 : 農林水産部局、保健福祉部局
- 北海道内の農業団体 : JA、ホクレン
- 北海道内の障がい福祉サービス事業者 : 主に、就労支援事業所

### <実施期間>

配布2018年5月下旬 回収2018年6月下旬迄

### <調査方法>

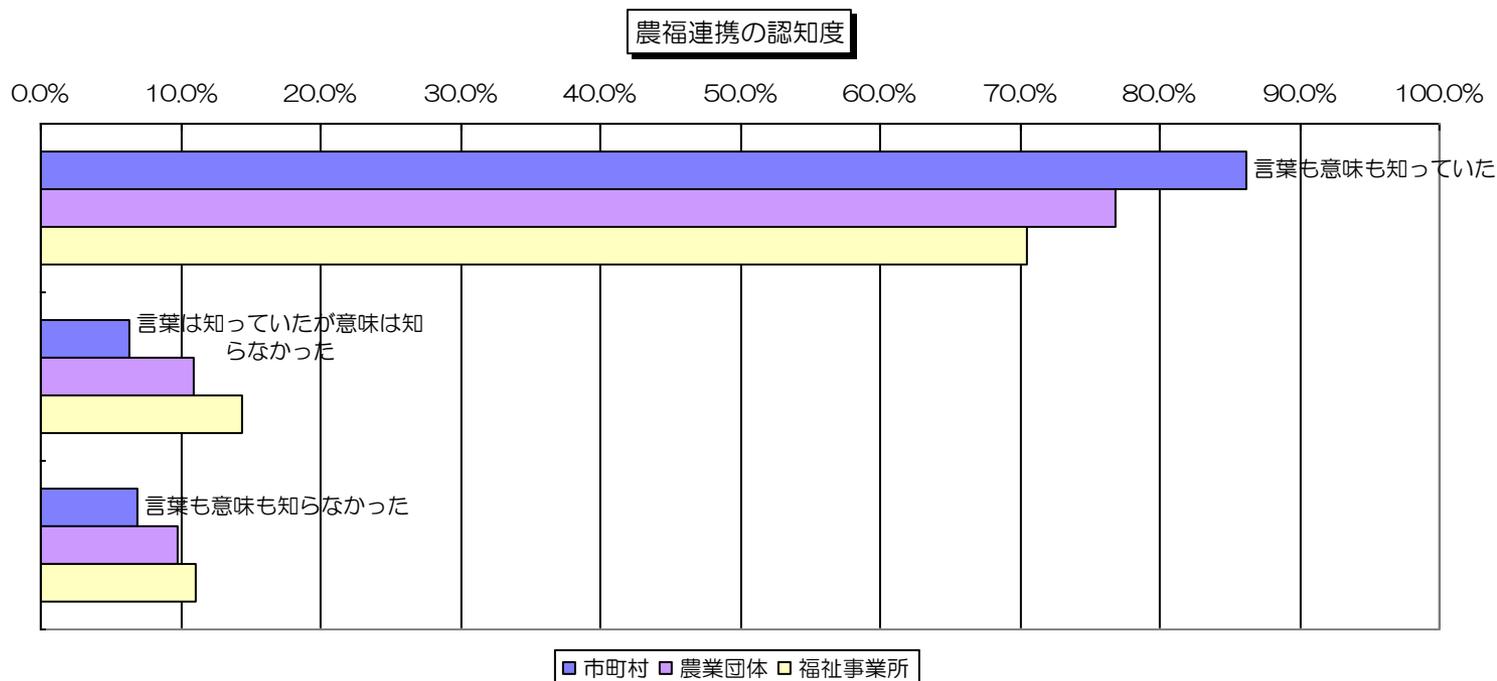
郵送調査法及びインターネット回答システムの併用

### <配布状況及び回収状況>

各機関ごとの配布数と回収数

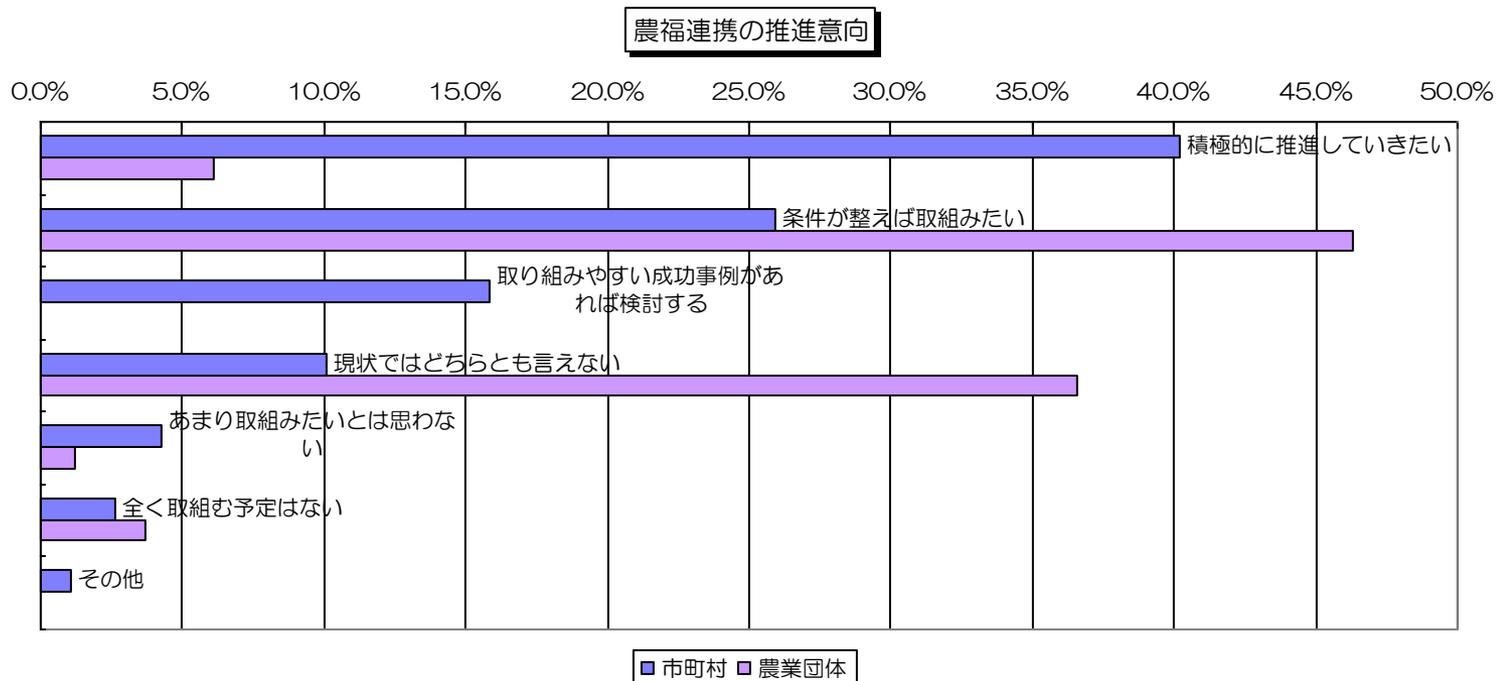
機関名称	配布数	回収数	回収率	備考
各市町村行政（農林水産部局）	179	95	53.1%	農政部門、保健福祉部門にそれぞれ配布
各市町村行政（保健福祉部局）	179	92	51.4%	
各市町村行政（その他部門）	—	1	—	
各市町村行政（町名部局不明）	—	1	—	
各市町村行政（合計）	358	189	52.8%	
北海道農業協同組合	109	74	67.9%	
ホクレン	14	8	57.1%	
障がい福祉サービス事業者	1,186	180	15.2%	
合計	1,667	451	27.1%	

# 回答結果1) 農福連携の認知度



●認知度では、市町村の認知度が最も高かった。

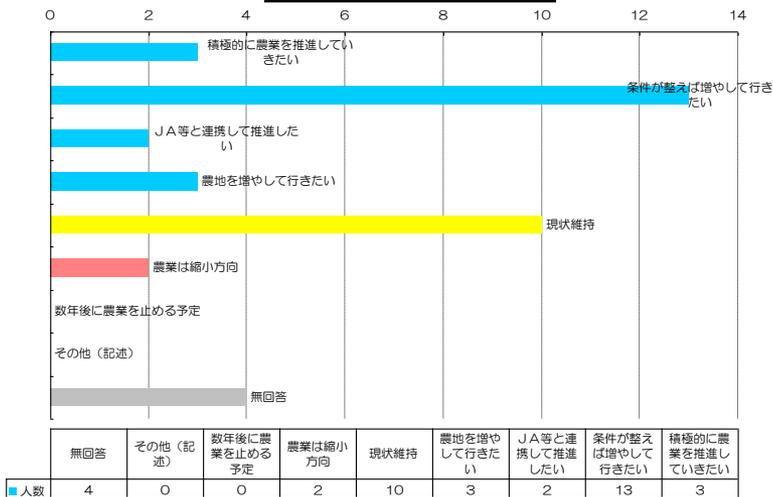
## 回答結果2) 農福連携の推進意向①



●推進意向では、市町村は「積極的な傾向」が高く、農業団体は「条件が整えば」と、やや慎重な姿勢である。

# 回答結果2) 農福連携の推進意向②

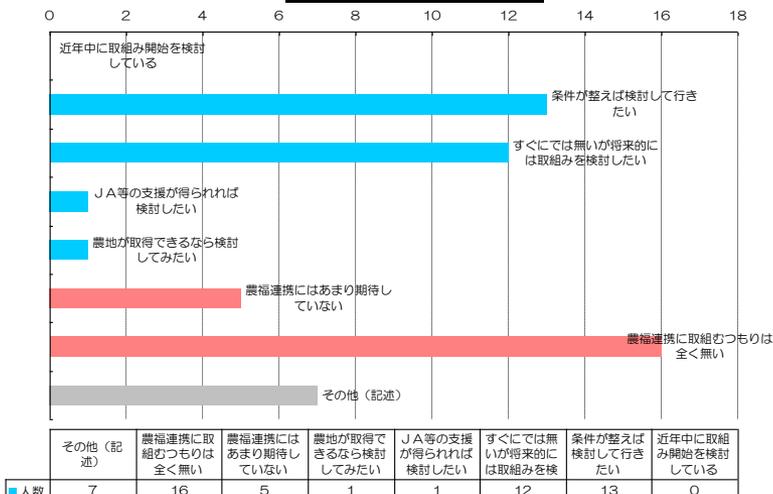
自社農園型 農福連携推進 推進意向



施設外就労型 農福連携推進 推進意向



非農業 農福連携推進 推進意向

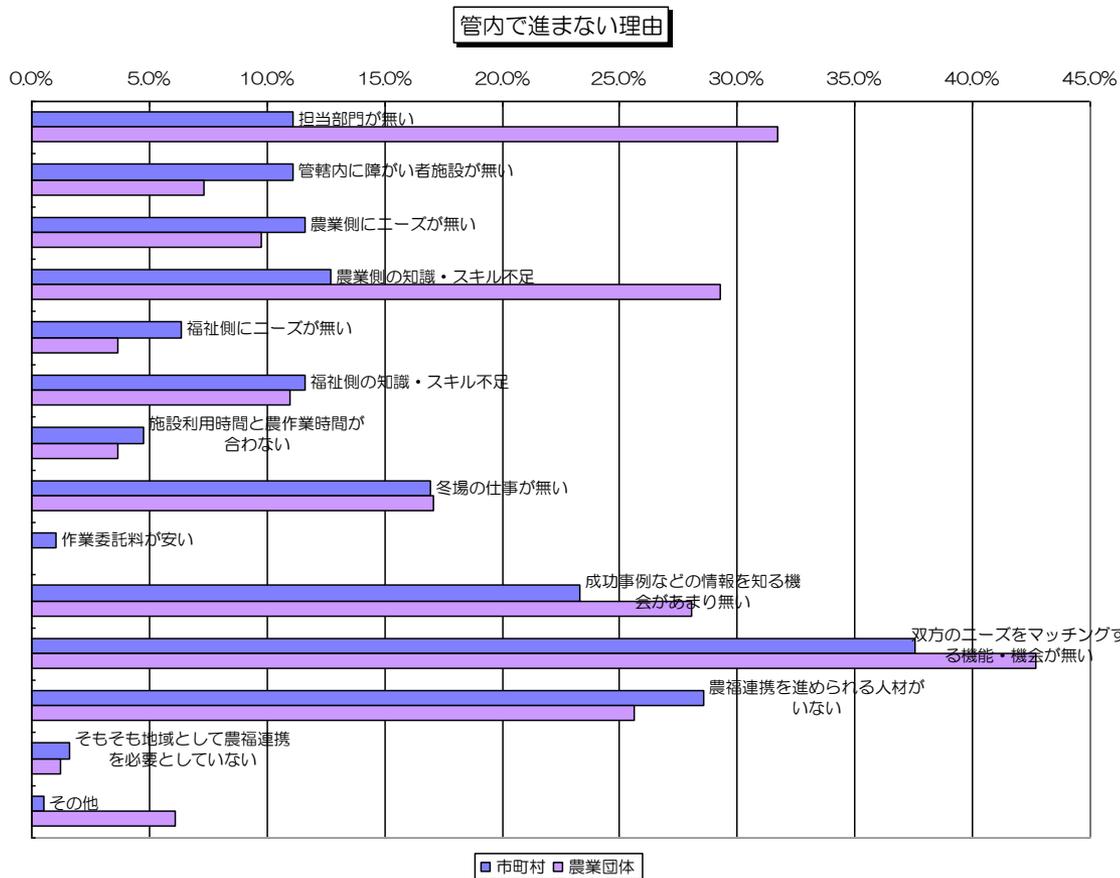


●自社農園を営む施設では【条件を整えば増やしたい】が35.1%で最も高い。

●施設外就労で農業に関わる施設では【条件を整えば増やしたい】が47.8%、【積極的に】が30.4%と積極派の合計値は78.2%と約8割となった。

●非農業施設では【農福連携に取組むつもりは全く無い】が13.3%、【農福連携にあまり期待していない】が4.2%で、否定派の合計値は17.5%となった。無回答が54.2%。

# 回答結果3) 管内で進まない理由



- 管内で進まない理由では、「農業団体」で【担当部署が無い】【農業側の知識・スキル不足】がかなり高くなった。
- 共通する意識としては【マッチング機能・機会が無い】【成功事例情報不足】【進める人材がい無い】が高い。

## 回答結果4) 取組めそうな作物

### <市町村>

1位：野菜類	50.3%
2位：米・米以外の穀物類	16.9%
3位：果樹果物類	15.9%

### <農業団体>

1位：野菜類	75.6%
2位：果樹果物類	31.7%
3位：花卉類、酪農	25.6%

### <福祉施設／自社農園型>

1位：野菜類	64.9%
2位：芋類	51.4%
3位：果樹果物類	21.6%

### <福祉施設／施設外就労型>

1位：野菜類	65.2%
2位：米・米以外の穀物類	26.1%
3位：果樹果物類	17.4%

\*注 福祉施設は実際に取り組んでいる内容

●取組めそうな作物では、全回答区分において【野菜類】が最も高くなり、【果樹果物類】も高い。

●農業団体では、【花卉類】【酪農】においても、期待が高い。

●福祉／自社農園型では、【芋類】に取り組む事業所比率が高い。

## 回答結果5) 適した又は実施する作業

### <市町村>

1位：収穫作業	40.7%
2位：草取り・除草	38.6%
3位：箱組立て	34.9%

### <農業団体>

1位：草取り・除草	59.8%
2位：箱組立て	58.5%
3位：収穫作業、箱詰め	41.5%

### <福祉施設／自社農園型>

1位：収穫作業	89.2%
2位：草取り・除草	81.1%
3位：肥料散布	70.3%

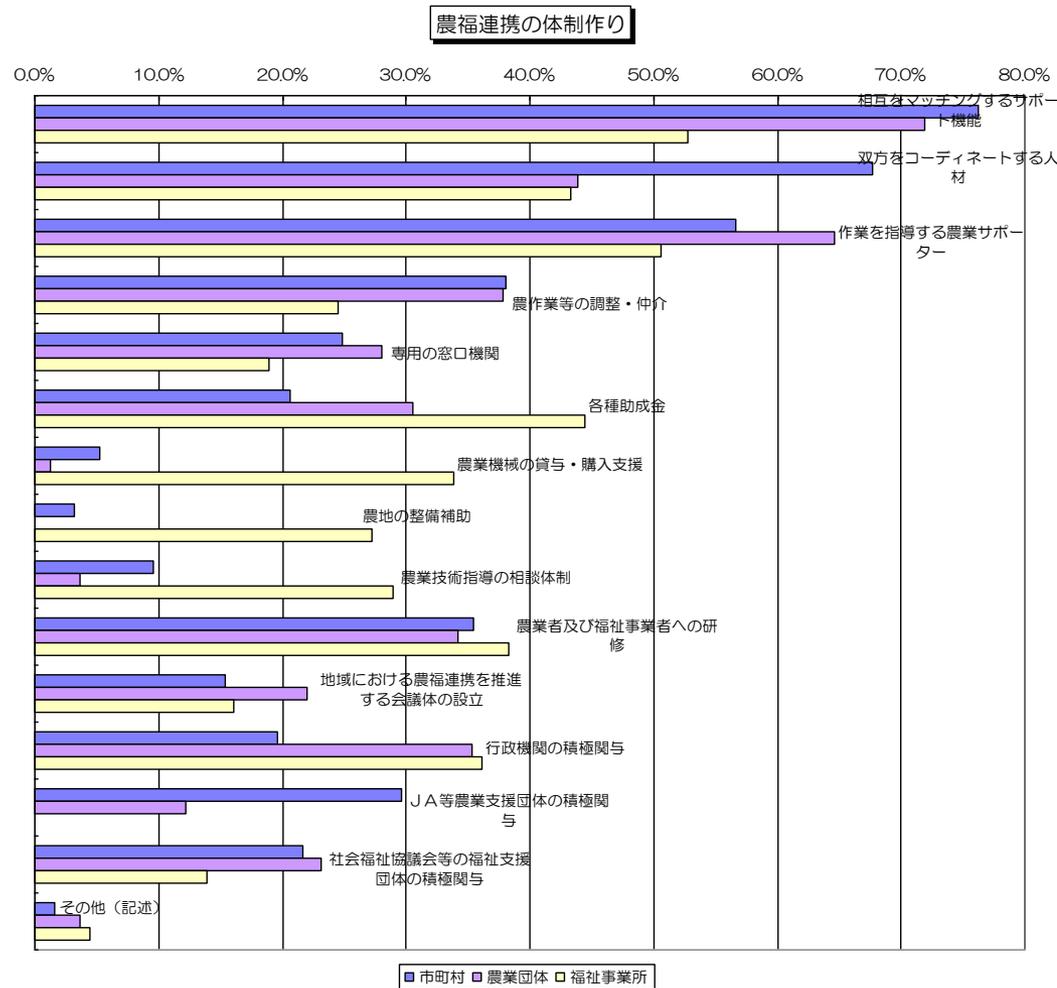
### <福祉施設／施設外就労型>

1位：草取り・除草、収穫作業	34.8%
2位：運搬・出荷作業	26.1%
3位：苗植え、栽培管理、計量、清掃	17.4%

\*注 福祉施設は実際に実施している内容

- 作業では、全回答区分において【草取り・除草】【収穫作業】が高い。
- 市町村、農業団体では、【箱組立て】が高くなっている。
- 福祉／自社農園型では、【肥料散布】に取組む事業所が多い。
- 福祉／施設外就労では、【運搬・出荷作業】【苗植え】【栽培管理】【計量】【清掃】なども高くなっている。

# 回答結果6) 求める推進体制作り



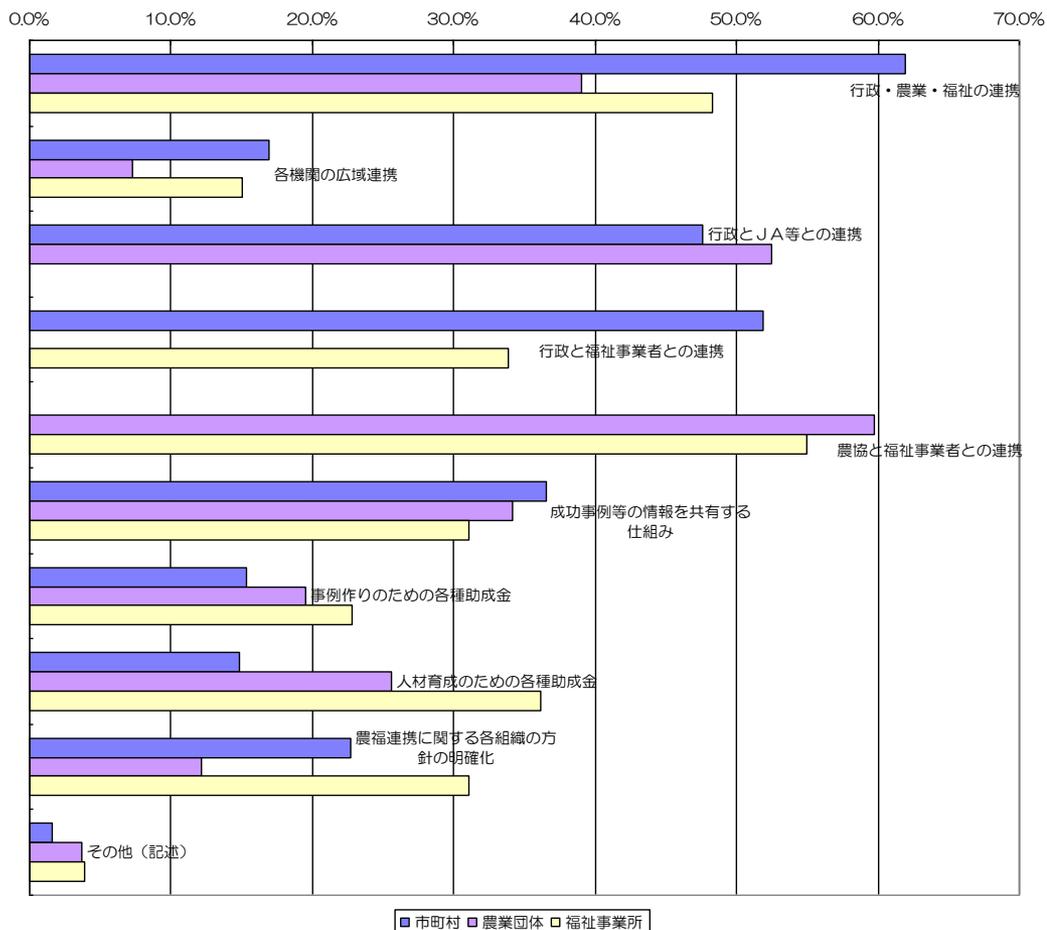
●体制作りでは、全体として【相互をマッチング・サポートする機能】【双方をコーディネートする人材】【作業を指導する農業サポーター】の比率が高くなっている。

●『マッチング』については「市町村」「農業団体」が、『コーディネーター』は「市町村」が、『農業サポーター』は「農業団体」が、それぞれ高い傾向となった。

●【各種助成金】【農業機械の貸与・購入支援】【農地の整備補助】【農業技術指導の相談体制】は「福祉事業所」が望んでいるようだ。

# 回答結果7) 農福連携を進める施策

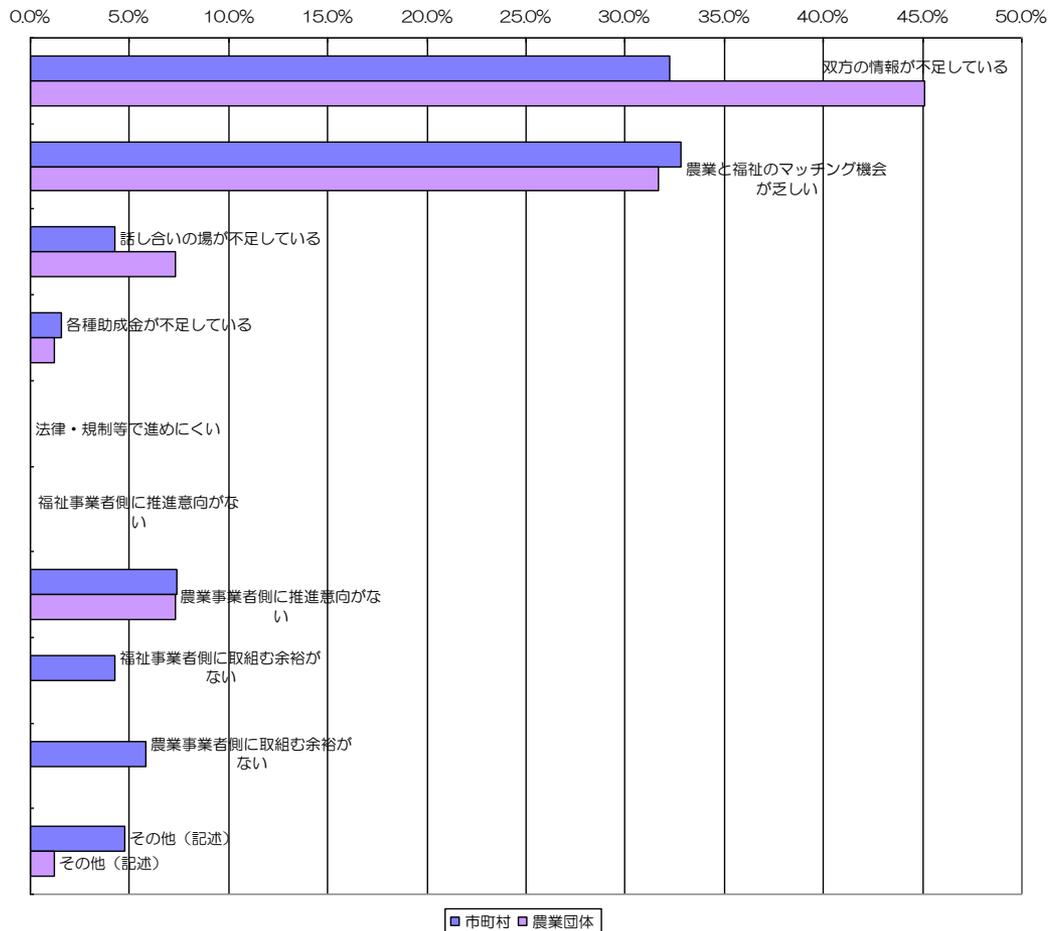
農福連携を進める施策



- 施策については、【行政・農業・福祉の連携】において「市町村」が強く望んでいる。
- 各2者間の連携では「農業団体」が行政、福祉と連携したいとする比率が高い。
- 「福祉事業者」は、【事例作りのための各種助成金】【人材育成のための各種助成金】【農福連携に関する各組織の方針の明確化】が高くなった。

# 回答結果8) 推進上の問題・課題

農福連携推進上の問題点・課題



- 最も重要な問題・課題では、【双方の情報不足している】【話し合いの場が不足している】で「農業団体」の方が高くなっている。
- 【農業と福祉のマッチング機会が乏しい】で「市町村」「農業団体」ともに3割を超えている。

## 回答結果9) まとめ

### ●<主要課題>

- ①双方をマッチングさせる（話し合いの場）ための機能・機会を増やすこと
- ②「農」「福」双方を理解し、連携を進められる人材を育成すること
- ③成功事例等の情報流通を活性化させること

### ●<解決策の検討>

- ①地域における「行政・農業・福祉」の連携体の必要性
- ②相互理解を前提とした認識の共有化と個別事業者の出会いの場作り
- ③連携事業を軌道に乗せるための専門人材の育成
- ④「農福連携」をステップで考える（いきなり雇用は困難）
- ⑤成功事例等の情報流通の活性化